

F市の実践例

幼稚園・保育園から小学校就学への円滑な移行支援をめざして ～ 一人一人の学びをつなぎ、育ちをつなぐために ～

I 就学前の連携

①職員の連携・児童と幼児の交流・・・発達や学びが連続する交流活動 カリキュラム調整

・保育体験（8月）・・・小学校職員が、幼稚園・保育園にて体験（0～5歳児）

ねらい：就学前後の連携を円滑で確かなものにし、小学校生活への不適應の要因を探り、小1プロブレムの克服へとつなげる。

- ・幼児の実態を把握する。
- ・保育の内容を研修し、小学校の教育につなげる

内容：各園との事前の打ち合わせ（指導案）により研修内容を決定

登園（片付け・オムツ交換など）／朝の会／おやつ／保育（祭り・プールあそび等）／給食（配膳・離乳食・後片付けなど）

- ・保幼小連携講演会（8月）・・・演題「ザ・子育て」
- ・公開保育（7・9・11月）・・・管理職・1年生主任・特別支援教育コーディネーター参加
- ・公開授業（1年生・特別支援学級の公開・道徳教育計画訪問・特別支援教育研究会）
- ・幼児と児童（主に1年生）の交流
プール交流（7月）・運動会リズム交流（9月）・遊び交流（11月）
小学校まつり参加（2月）・半日入学（2月）

②就学前の療育を担う養護訓練センターとの連携

- ・特別支援学級・通級指導教室・1年生の授業見学と相談会（6月）
通所している保護者対象（新就学・年少・年中幼児の保護者）

③特別支援コーディネーターの連携

- ・センター的機能の活用による**特別支援学校コーディネーター来園とケース会議**（幼稚園担任・幼稚園特別支援教育コーディネーター・小学校特別支援教育コーディネーター）
- ・入学後も継続的な支援をするために、プロフィールブック・個別の教育支援計画等の活用を検討
- ・**特別支援学級見学・相談会**（幼稚園保護者・幼稚園特別支援教育コーディネーター） 随時

II 就学後の連携

①幼稚園・保育園との連携

- ・**新1年生の連絡会**（4月）・・・就学前の保育の様子・配慮事項などについて
- ・**公開授業参観**（6月）・・・入学後の適応状態の把握
（1年生・特別支援学級・ことば通級指導教室）

②養護訓練センターとの連携

- ・**新1年生の連絡会**（5月）・・・就学前の療育の様子・配慮事項などについて
- ・**通所していた児童の公開授業参観**（6月）・・・入学後の適応状態の把握

<成果>

○連携により、発達や学びが連続する交流活動やカリキュラム調整の進展

- ・保育と教育の共通点への気付き
- ・共通の課題を確認
- ・カリキュラムのつながりと見直し
- ・保育体験と子どもどうしの交流に寄せる保護者の期待

○特別支援教育の体制整備

・幼稚園と小学校の特別支援教育コーディネーターのつながりで円滑な移行支援

<課題>

△養護訓練センターに通所を勧められても、通所しなかった幼児への対応

- ・早期療育のチャンスを逃し、困難さを抱えたままの1年生入学
- ・子どもが困っているという意識がない保護者

△F市が受けている3つの指定事業の共同参画と実践

- ・所管は違うが、一人一人の子どもを見守り、同じねらいでの共同参画
- ・相互乗り入れ、データの集積、成果の共有による幼児教育の充実と円滑な移行支援